

デジカメだって使っちゃえ！「がっこうたんけんぱーと2！」

雑賀 真澄

入学して間もない頃の学校探検から数ヶ月たち、学校生活の経験が増えてくると、子供たちには一人一人に『お気に入りの場所』『自分だけが知っている”ひみつの場所”』ができてきます。自分の掃除場所、兄弟姉妹の教室、休み時間の散歩で見つけた驚きの物など、自分の気づきや自分だけの経験をクイズ仕立てにして披露しあう、こんな学習はいかがでしょう。

学習の主な流れと留意点

活動の趣旨を理解する

「自分だけのお気に入りの場所・ひみつの場所をクイズにしよう」と投げ掛け、教師の準備した学校探検クイズを楽しませます。デジタルカメラで撮影した写真を大きく投影し、クイズを盛り上げておくことが大切です。

このとき、ぱっと見ただけでは場所が特定できず、かつ、ヒントになる物が同時に写っている写真を使い「ほーら、よく見るとヒントがあるよ！」と、ヒントの撮し込みを意識させるようにします。クイズの終末では「わかりにくいけどヒントがちゃんと写っている写真がクイズにはぴったりだね。」とダメを押しします。

作戦タイム

ぱっとクイズにする場所が思い浮かばない子もいるでしょうから、出題場所を検討する・探す時間をとります。グループで行わせるとアイデアの寄せ合いが生まれ、気づきに時間のかかる子供も楽しく問題作りがクリアできます。

デジカメの操作講習・撮影

撮影方法をできるだけシンプルに伝えます。電源のON・OFFとシャッターボタン半押しでのピント合わせ、ズームボタンをうっかり触ってしまったときの解除方法くらいで十分でしょう。これもグループで行わせると助け合いが生まれます。ただし「自分のクイズの写真は自分で撮ってくること！」と制限をかけ、経験の偏りを防ぎます。

問題の答え作り

クイズの出題は個々に行わせるので、答えの原稿を用意させておくと発表や受け答えに自信のない子でも安心して楽しむことができます。出題する写真を貼り付けて印刷したワークシートに、「写した物は何か」「校舎のどこにあるか」「その部屋・場所の説明」を文で書いておきます。出題にはこのワークシートを持って臨みます。

デジカメの操作講習・写真の再生

テレビやプロジェクタへの接続は教師がし、撮影した写真を順送り逆送りする方法のみを教えます。

クイズ大会

一人一問の出題です。子供たちは回答者を指名する権利があることをとてもうれしく感じるようです。しだいに教師の助けがなくても子供たちだけで、写真の投影 出題 回答 正解の発表、と進めるようになります。クイズがだらだらになってしまうために回答者数の制限をするとよいでしょう。アドリブでの受け答えが出てきたらすかさずほめましょう。クイズを盛り上げる演出・声掛けもこの場での大きな支援です。

学習のまとめ

子供たちが自分の気づきを自覚できるようなまとめができることが理想です。問題に使った自分だけの秘密の場所、クイズで見事に正解できた場所、クイズで初めて知った場所、自分の日常の気づきを具体的にすることができ、また、校舎への親密感が増し、親しみや愛着感が持てるようになっていけば活動の目的は十分達成できたと言えるでしょう。

ワークシートの例

【がっこうたんけんぱーと2】 —ここはどこ—



これは、だい2おんがくしつのろうかにあるしょうかきです。ちかくのかでいかしつからひが出たときはすぐつかえます。そばにあるのはおんがくのときみんながくつをいれるくつばこです。